

【第 1 問】

【解答】

〔1〕

$$y = -2x^2 + ax + b \quad \dots\dots\dots \textcircled{1}$$

$$= -2\left(x^2 - \frac{a}{2}x\right) + b$$

$$= -2\left(x - \frac{a}{4}\right)^2 + b - (-2)\left(\frac{a}{4}\right)^2 \quad \leftarrow \text{平方完成}$$

$$= -2\left(x - \frac{a}{4}\right)^2 + \frac{a^2}{8} + b$$

よって、頂点の座標は $\left(\frac{a}{4}, \frac{a^2}{8} + b\right)$ である.

点 (3, 8) を通るので $x = 3, y = 8$ を $\textcircled{1}$ に代入して

$$-8 = -2 \cdot 9 + 3a + b$$

$$\Leftrightarrow 10 = 3a + b$$

$$\Leftrightarrow b = -3a + 10 \quad \dots\dots\dots \textcircled{2}$$

(1) 放物線 C が x 軸と接するためには、頂点の y 座標が 0 になればいいので

$$\frac{a^2}{8} + b = 0$$

$$\Leftrightarrow \frac{a^2}{8} - 3a + 10 = 0 \quad \leftarrow \textcircled{2} \text{ を使った}$$

$$\Leftrightarrow a^2 - 24a + 80 = 0$$

$$\Leftrightarrow (a - 4)(a - 20) = 0$$

$$\Leftrightarrow a = 4, 20$$

となる.

$a = 4$ のとき、頂点の座標は (1, 0)

$a = 20$ のとき、頂点の座標は (5, 0)

であるから、 $a = 20$ のときの放物線 C は $a = 4$ の放物線 C を x 軸方向に $5 - 1 = 4$ だけ平行移動したものである.

(2) $f(a) = \frac{a^2}{8} - 3a + 10$ とおくと

$$f(a) = \frac{1}{8}(a^2 - 24a) + 10$$

$$= \frac{1}{8}(a - 12)^2 + 10 - \frac{1}{8} \cdot 12^2 \quad \leftarrow \text{平方完成}$$

$$= \frac{1}{8}(a - 12)^2 + 10 - 18$$

$$= \frac{1}{8}(a - 12)^2 - 8$$

よって、 C の頂点の y 座標は $a = 12$ のとき、最小値 -8 をとる.

- [2] (1) 8 個の頂点から 3 つの頂点を選ぶと 3 三角形に対応するので、できる三角形の数は

$${}_8C_3 = \frac{8 \cdot 7 \cdot 6}{3 \cdot 2 \cdot 1} = 56$$

となる.

できる三角形の種類は、3 辺の長さが

(a) $\sqrt{2}, \sqrt{2}, \sqrt{2}$

(b) $1, 1, \sqrt{2}$

(c) $1, \sqrt{2}, \sqrt{3}$

の 3 種類である.

- (2) (b) のタイプ、すなわち立方体から 6 つの面を作る正方形の 4 点の中から 3 点を選ぶようにすればいいので

$$\frac{{}_4C_3 \cdot 6}{56} = \frac{3}{7}$$

(a) のタイプ、すなわち 1 つの頂点の周りを囲むように点を選べばいいので、できる正三角形の数は頂点の数と 8 個と同じである. よって

$$\frac{8}{56} = \frac{1}{7}$$

- (3) (c) のタイプができる確率は余事象を考えて、 $1 - \frac{1}{7} - \frac{3}{7} = \frac{3}{7}$ である. また、(a) のタイプの面積は $\frac{\sqrt{3}}{2}$, (b) タイプのときは $\frac{1}{2}$, (c) のタイプのときは $\frac{\sqrt{2}}{2}$ であるので

X	$\frac{\sqrt{3}}{2}$	$\frac{1}{2}$	$\frac{\sqrt{2}}{2}$
P	$\frac{1}{7}$	$\frac{3}{7}$	$\frac{3}{7}$

よって、面積の期待値 $E(X)$ は

$$\begin{aligned} E(X) &= \frac{\sqrt{3}}{2} \cdot \frac{1}{7} + \frac{1}{2} \cdot \frac{3}{7} + \frac{\sqrt{2}}{2} \cdot \frac{3}{7} \\ &= \frac{3 + 3\sqrt{2} + \sqrt{3}}{14} \end{aligned}$$

【第 2 問】

【解答】

[1] (1) (a) 割り算を実行すると

$$A = \underbrace{(x^2 - 3x + 2)}_{\text{商}}(x + p + 3) + \underbrace{(3p + q + 7)x - 2p + r - 6}_{\text{余り}}$$

である. 商が $x - 1$ と等しいので

$$p + 3 = -1 \Leftrightarrow p = -4$$

(b) 条件より, $-2p + r - 6 = 0$ なので,
 $r = 2p + 6$ である.

(c) 条件より

$$\begin{aligned} x + p + 3 \\ = (3p + q + 7)x - 2p + r - 6 \end{aligned}$$

である. 係数を比較して

$$\begin{cases} 1 = 3p + q + 7 & \dots\dots ① \\ p + 3 = -2p + r - 6 & \dots\dots ② \end{cases}$$

である. ① + ② より

$$\begin{aligned} p + 4 &= q + r + p + 1 \\ \Leftrightarrow q + r &= 3 \end{aligned}$$

(2)

$$\begin{aligned} &(|a + b| + |a - b|)^2 \\ &= (a + b)^2 + 2|a + b||a - b| + (a - b)^2 \\ &= 2(a^2 + b^2 + |a^2 - b^2|) \quad \dots\dots ③ \end{aligned}$$

$$\blacktriangleleft |a \pm b|^2 = (a \pm b)^2$$

$(|a + b| + |a - b|)^2 = 4a^2$ を ③ に代入すると

$$\begin{aligned} 4a^2 &= 2(a^2 + b^2 + |a^2 - b^2|) \\ \Leftrightarrow 2a^2 &= a^2 + b^2 + |a^2 - b^2| \\ \Leftrightarrow a^2 - b^2 &= |a^2 - b^2| \end{aligned}$$

よって, 求める必要十分条件は $a^2 \geq b^2$.

$a^2 \geq b^2$ でないとき, $|a^2 - b^2| = b^2 - a^2$
なので

$$2(a^2 + b^2 + |a^2 - b^2|) = 4b^2$$

となる.

$$\frac{1}{2}(|a+b| + |a-b|) = b \dots\dots\dots \textcircled{4}$$

$$\Rightarrow \frac{1}{4}(|a+b| + |a-b|)^2 = b^2$$

$$\Leftrightarrow (|a+b| + |a-b|)^2 = 4b^2$$

よって, まず $a^2 \leq b^2$ が必要.

ところで, $\textcircled{4}$ の左辺は正なので右辺も正. よって, $b > 0$ も必要.

以上から, 求める条件は $|a| \leq b$ である.

[2] 余弦定理より

$$\begin{aligned} \cos A &= \frac{5^2 + (4 + \sqrt{3})^2 - (2\sqrt{3})^2}{2 \cdot 5(4 + \sqrt{3})} \\ &= \frac{32 + 8\sqrt{3}}{10(4 + \sqrt{3})} = \frac{4}{5} \end{aligned}$$

である. よって

$$\sin A = \sqrt{1 - (\cos A)^2} = \sqrt{1 - \frac{16}{25}} = \frac{3}{5}$$

であるので, $\triangle ABC$ の面積 S_1 は

$$\begin{aligned} S_1 &= \frac{1}{2} \cdot AB \cdot AC \cdot \sin A \\ &= \frac{1}{2} \cdot 5 \cdot (4 + \sqrt{3}) \cdot \frac{3}{5} \\ &= \frac{3}{2}(4 + \sqrt{3}) = \frac{12 + 3\sqrt{3}}{2} \end{aligned}$$

である.

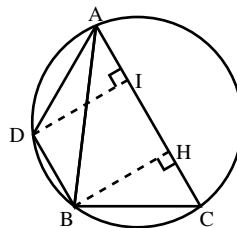
ここで右欄外のように H と I をおくと, BD と AC は平行なので, BH = DI である. よって, 台形 ABCD の面積は等脚台形である. したがって, BC = AD なので, BD = x と

すると、トレミーの定理より

$$\begin{aligned} AD \cdot BC + BD \cdot CA &= AB \cdot CD \\ \Leftrightarrow (2\sqrt{3})^2 + x(4 + \sqrt{3}) &= 25 \\ \Leftrightarrow x &= \frac{13}{4 + \sqrt{3}} = 4 - \sqrt{3} \end{aligned}$$

よって、台形 ABCD の面積 S_2 は

$$\begin{aligned} S_2 &= \frac{1}{2} \cdot 2\sqrt{3}(4 + \sqrt{3}) \cdot \frac{\sqrt{3}}{2} \\ &\quad + \frac{1}{2} \cdot 2\sqrt{3}(4 - \sqrt{3}) \cdot \frac{\sqrt{3}}{2} \\ &= \mathbf{12} \end{aligned}$$



◀ 余弦定理より、 $\cos C = \frac{1}{2}$ なので
 $\sin C = \frac{\sqrt{3}}{2}$ であり、 $\sin D = \frac{\sqrt{3}}{2}$
 である

【第 3 問】

【解答】

- (1) 公比は $-\frac{1}{\sqrt{3}}$ であるので、第 6 項を b_6 とすると

$$b_6 = 18 \left(-\frac{1}{\sqrt{3}} \right)^5 = \frac{-2\sqrt{3}}{3}$$

奇数項のみの数列は初項が 18、公比が $\frac{1}{3}$ の数列と考えられるので、求める和 S_1 は

$$\begin{aligned} S_1 &= \sum_{k=1}^8 18 \left(\frac{1}{3} \right)^{k-1} \\ &= \frac{18 \left\{ 1 - \left(\frac{1}{3} \right)^8 \right\}}{1 - \frac{1}{3}} \\ &= \frac{6560}{243} \end{aligned}$$

◀ 等比数列の和

- (2) 第 1 区画から第 n 区画までの区画に含まれる項の個数を c_n とすると、 c_{20} は

$$c_{20} = 1 + 2 + 3 + \cdots + 20 = \frac{20 \cdot 21}{2} = 210$$

である。

また、 $c_{21} = c_{20} + 21 = 231$ なので、 $c_{20} < 215 < c_{21}$ である。よって、 a_{215} は第 21 区画に含まれるので、 $a_{215} = 21$ である。

第 1 区画から第 20 区画までの区画に含まれる項の総和 S_2 は

$$S_2 = \sum_{k=1}^{20} k^2 = \frac{20 \cdot 21 \cdot 41}{6} = 2870 \quad \cdots \cdots \textcircled{1}$$

$$\leftarrow \sum_{k=1}^n k^2 = \frac{n(n+1)(2n+1)}{6}$$

である。

$a_1 + a_2 + \cdots + a_n \geq$ となる最小の自然数 n を p とすると、 a_p は第 21 区画に含まれるので

$$\begin{aligned} 3000 - S_2 &= 3000 - 2870 \\ &= 130 = 21 \cdot 6 + 4 \end{aligned}$$

であるから、 a_p は第 21 区画の前から 7 つ目の数であると分かる。よって、 $p = c_{20} + 7 =$
217 である。

【第 4 問】

【解答】

(1) G (傍心) は外角の 2 等分線の交点であるので

$$2\angle EAG = \angle EAC$$

である。また、 $\angle EAC$ は $\angle CAB$ の外角なので

$$\angle EAC = \angle ABC + \angle BCA$$

となる。また、 $\triangle ABC$ は二等辺三角形なので

$$\angle ABC + \angle BCA = 2\angle ABC$$

である。よって、 $\angle EAG = \angle ABC$ である。したがって、直線 **AG** と直線 **BF** は平行である。

円の中心から接点に下ろした線と接線は直角に交わるので

$$\angle ADG = \angle GFD = 90^\circ$$

である。さらに、 $AG \neq GF$ なので、四角形 **ADFG** は長方形である。

(2) 三平方の定理より、 $AD = \sqrt{5^2 - 2^2} = \sqrt{21}$ である。

角の二等分線定理より、 $AI : ID = 5 : 7$ なので

$$AI = \sqrt{21} \cdot \frac{5}{7} = \frac{5\sqrt{21}}{7}$$

である。

$\triangle ABG$ は二等辺三角形なので

$$AG = AB = 5$$

である。よって、 $\triangle AIG$ に三平方の定理の定理を用いて

$$IG = \sqrt{5^2 + \frac{5^2 \cdot 21}{7^2}} = \frac{5\sqrt{70}}{7}$$